学校だより　第７号
木城町立みどりの杜木城学園

11月 椎の苗木

令和５年１１月１５日（水）
文責　：　佐藤　　健一郎

地域公開参観日　～生涯学習のつどい～

１１月１１日（土）に『木城町生涯学習のつどい大会（１０月２８日実施）』の一環として、地域公開参観日を開催しました。内容は、通常の授業を参観する参観授業と授業に参加する参加型授業と地域の方やゲストティーチャーが授業をする参画型授業を行いました。多くの方に来ていただき、本校の教育目標の一つ「児童生徒を地域と共に育成する」ことに近づけたのではないかと思います。また、交流ホールでは県の埋蔵文化センター主催の「ふるさとの遺跡再発見」を開催し、ギャラリートークや体験講座も行われ、多くの保護者や地域の方が自ら学ぼうと参加されていらっしゃいました。放課後には学校保健委員会が開催され、宮崎県男女共同参画地域推進員の黒木瑞季様より「それでも、生きぬいた」という演題で多様な性と性同一性障害についてのご講話をいただきました。子ども達だけでなく、大人の学ぶ姿もたくさん見られた今回の参観日。生涯学び続けることの大切さを改めて感じた１日でした。たくさんのご参加ありがとうございました。

高鍋町・木城町学校音楽祭　～福智王と校歌を披露してきました～

１１月７日（火）に４年生と９年生が本校の代表として高鍋町・木城町学校音楽祭に参加してきました。会場に入ると、参加者や観客の人数に圧倒されて緊張している様子でしたが、本番になると４年生は元気に福智王を踊り、その勢いのまま４年生と９年生が二部合唱で校歌を歌いました。木城学園の児童生徒として誇りをもって歌ってくれた姿は、義務教育学校のよさの１つを参加者にも伝えることができたと思います。

宮崎県中学校秋季体育大会の結果

地区秋季体育大会で勝ち上がり、県大会に出場した選手が県大会でも好成績を残しました。

○柔道クラブ　男子 55kg 級　第３位：甲斐光稀さん（８年生）

６年修学旅行　～ 沖縄２泊３日の旅 ～

【ひむかいの塔】

【首里城】

６年生 54 名は、10 月 25 日（水）～28 日（金）の日程で２泊３日の沖縄修学旅行に行きました。到着後の最初の訪問地は「ひむかいの塔」。沖縄戦での宮崎県出身の戦没者が眠る慰霊の地です。子どもたちは準備してきた千羽鶴と花を供え、木城町慰霊の歌「三百三十八柱」を歌い、平和を誓いました。ひめゆりの塔では戦争を経験された方の手記から、戦争の悲惨さや平和の大切さ、命の尊さを知ることができました。また、現地の一般家庭で一晩お世話になる民泊では、それぞれのご家庭であたたかい歓迎を受けました。５～６人ずつ１０のご家庭で、郷土料理を味わわせてもらったり、三線を弾かせていただいたり、自然や歴史的な場所を案内してもらったりと、貴重な体験をさせてもらいました。首里城では、沖縄の文化や歴史を見聞するとともに、外国人観光客を見かけた子どもたちは、「Hello!」や「Where do you come from?」と、学習した英語を駆使してコミュニケーションをとる姿も見られ、その積極性を嬉しく思いました。計画段階から旅程の最後まで、多くの方々にお世話になって実現した修学旅行。特に沖縄の方々の優しさやおもてなしの心、笑顔にたくさん触れることができたことは、子どもたちの心にしっかりと刻まれていると思います。子どもたちにとってかけがえのない経験と思い出ができました。

【民泊先にて】

耕心コーナー　「うれしい情報に感謝！」

先日ある保護者の方から、本校児童生徒の行動について次のような情報をいただきました。

十月に行われた「ふるさと祭り」で十五kgほどある肥料を購入した親戚が、車までどのように運ぼうかと迷っていた時、本校の男子児童が、「僕が運びますよ。」と声をかけ車まで運んでくれました。

その保護者の方は「人と人との関わりが難しくなってきたこのご時世、知らない人への思いやりの心に、心が温かくなった。」と言われていました。

私はこのエピソードを聞いて、本当にうれしくなりました。このような声かけや行動ができた児童を褒めたいと思いますし、本校児童生徒のよさをお伝えいただいたことにも感謝しています。先月も書きましたが、「地域の子どもは地域で育てる」まさしくその一つだと感じたからです。校内で私たち教職員から褒められたり、認められたりすることも児童生徒の成長には大切なことですが、地域の方からこのように褒められたり、認められたりしていただくことは、児童生徒が地域で積極的に活動することにつながり、ひいては地域を愛する心に確実につながっていくと考えます。

今年の「ふるさと祭り」では、後期課程の生徒が四名会場入口での受付等ボランティアとして運営に携わってくれました。その姿を見て大変うれしく思うと共に、このような機会を与えていただいたことにも感謝したところでした。「地域と共に！」